

WWF・JSCI共催セミナー：
繊維産業に求められるサステナビリティとは？
～水リスクとコットンについて考える～

原材料生産地での水負荷の削減と
環境再生型農業の推進

2023年5月10日(水)

一般社団法人ソリダリダード・ジャパン

楊 殿閣 (やなぎ でんか)

コンテンツ

- ◆ 組織紹介
- ◆ 原料生産地の課題
- ◆ 課題解決に向けての取組み



13種類の国際主要取引品目と、多数のローカル農産物。



1969年に創設

8地域センター、40か国以上で活動展開

Solidaridad

OLD ROOTS OF 54 YEARS



1969-80

ラテンアメリカの貧困農家
への慈善事業から活動開始



1996

フェアトレード・
フルーツの企業設立



2002

コーヒーとテキスタイル
のデジタル・トレーサ
ビリティ・ツールの開発



2012-14

9か国以上で国家基準
の設立支援



1988

フェアトレード (Max Havelaar) の
創設とフェアトレード運動の牽引



2001

オーガニック・コットン/
フェアトレード・デニム
の企業設立



2006-08

品目ごとのサプライチェーン・
ランドテーブルの推進



2021

環境再生型農業の普及

Solidaridad

私たちの活動は、3つの基本方針に沿って、
持続可能なサプライチェーン構築を目指します。



経済的利益：

農家の生産性とビジネスチャンスを増加させ、生計向上とコミュニティ全体の生活改善をめざします。

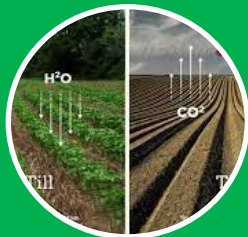
自然とのバランス：

自然環境への負荷を軽減し、資源の効果的な利用による、健全な生態系の回復につながる農法を普及・推進します。

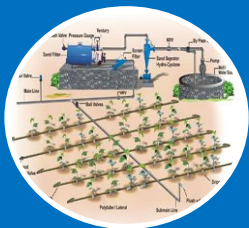
社会的包摂：

ジェンダー平等の推進や社会的弱者のエンパワーメント、先住民・マイノリティの社会参加を促します。

持続可能な農法普及の活動戦略・イノベーションテーマ



リジェネラティブ
(環境再生型)
農業



統合的なツールの
整備と効率的な水
使用



気候変動対応型
農業
ランドスケープの
戦略策定



ディーセントワーク
・ジェンダー平等



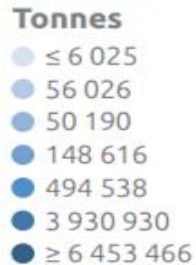
デジタル
トレーサビリティ



原料生産地の課題：

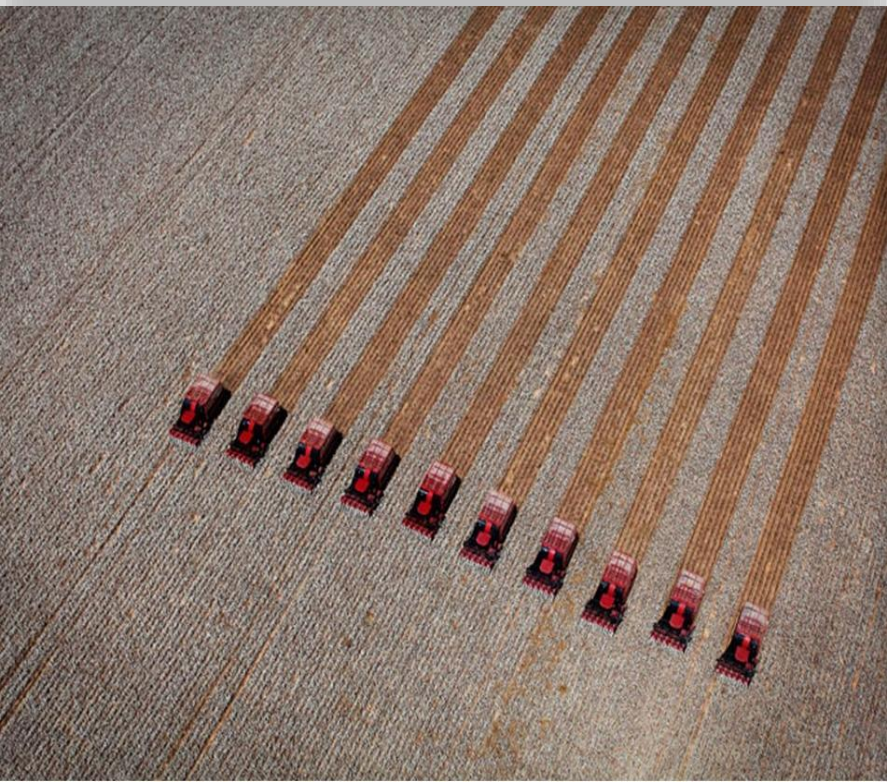
経済的側面・環境的側面・社会的側面

世界の綿花生産



綿花は、全体の約8割がインド、中国、アメリカ、パキスタン、ブラジル、ウズベキスタンの6カ国で生産されています。

アメリカ



インド

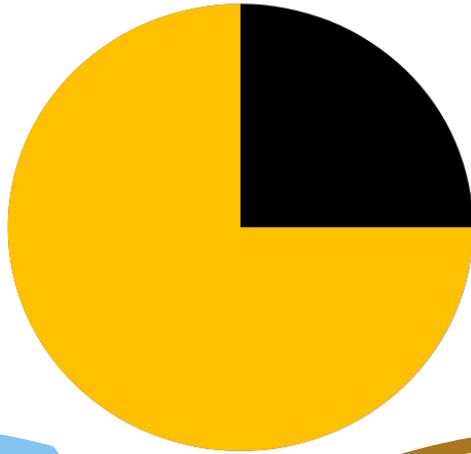


大規模農家 / 小規模農家

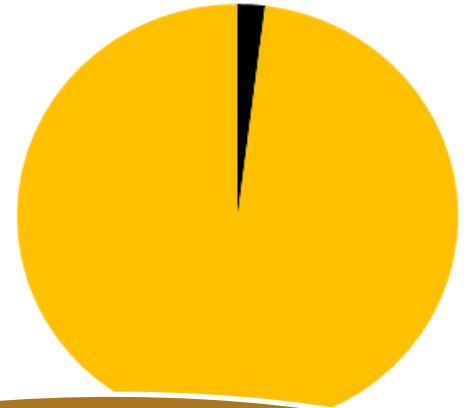
生産量



農地面積



労働人口



経済的インパクト

環境的インパクト

社会インパクト

ENVIRONMENTAL

PEST AND PESTICIDE MANAGEMENT

- Environmental contamination by pesticides
- Pest management and crop production
- Human exposure to pesticides

WATER MANAGEMENT

- Water depletion
- Crop water management
- Soil salinization
- Water quality

SOIL MANAGEMENT

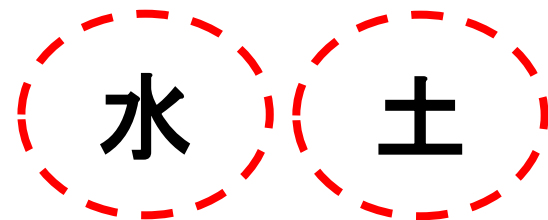
- Soil fertility
- Soil erosion

BIODIVERSITY AND LAND USE

- Land conservation
- Land productivity

CLIMATE CHANGE

- Greenhouse gas (GHG) emission
- Decomposition and mineralization
- Energy use
- Carbon stock change



SOCIAL

LABOUR RIGHTS AND STANDARDS

- Child labour
- Employment conditions
- Freedom of association
- Social protection

WORKER HEALTH AND SAFETY

EQUITY AND GENDER

FARMER ORGANIZATION

サステナビリティ推進

ECONOMIC

ECONOMIC VIABILITY, POVERTY REDUCTION AND FOOD SECURITY

ECONOMIC RISK MANAGEMENT

環境・社会・経済の課題解決への取り組み

綿花生産における課題

課題解決に向けての取組み

インド（マハラシュトラ州）の事例

自然資源の有効活用

水の効果的な利用

コミュニティ内の対話

農家

デジタル・ツールの活用

モニタリング・システムの運用

農家研修・トレーニング

ソリダリダード

2018年から20,000 農家を対象に、水の効率的な利用による綿花生産方法のトレーニングと、生産者組合の能力開発研修を実施。

2021年から8,000農家を対象に、環境再生型農業の導入。



モデル・ファーム

ファーマーズ・スクール



環境再生型農業の導入に期待される変化



「土」の再生

- 土壌の保水力の向上。
- 土壌の肥沃度の向上。
(微生物の活動と栄養の循環が向上する。)
- 土壌の炭素吸収力の向上。

統合的な農家支援の実施に期待される成果（[「水」に関連する側面](#)で2023年に見込まれる成果）

- 20,000農家が研修・トレーニングを受け、持続可能な農業に移行する。
- 雨水貯留設備の利用により、1,400万m³の雨水が貯水できる。
- 1m³の水使用で、綿花の生産量が0.2kg以上（1ヘクタールあたり100kg以上の綿花収穫量）増加する。



**CHANGE
THAT MATTERS**

Solidaridad



一般社団法人ソリダリダード・ジャパン事務局

E-mail: japan-info@solidaridadnetwork.org

Web: solidaridadnetwork.or.jp